

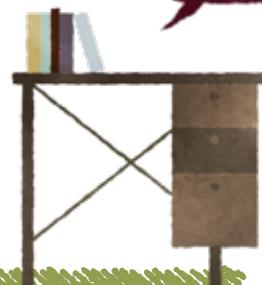


家にワーキングスペースをつくろう！ イマドキの“書斎”的作り方

あこがれのマイホームが実現すれば…「書斎」を希望される方が増えています。しかし書斎の広さは？機能性は？インテリアのイメージは？いざ、イメージするとあれこれ考えてしまします。ここでは自分に合った書斎を実現する方法を簡単に、わかりやすく解説します。



テレワーク（在宅勤務）等の働き方の変化にも対応できる書斎づくり



今、流行の書斎とは

最近は新型コロナウイルスの影響で、テレワーク（在宅勤務）など働き方が大きく変わったため『家でも仕事ができるように』と、書斎を希望される方が増えているようです。

それとは別に、一人の時間より家族との時間を優先するようなライフスタイルの変化によって、独立した書斎よりも仕切りのないオープン空間に書斎を希望されるご家族もあります。「書斎分の空間があるなら、もっとリビングを広げたい」などの理由で広くとったリビングダイニング内に、子どもたちが学習できるようなスペースでもあり、仕事も可能な書斎を設ける場合もあります。



書斎のレイアウト

大きく分けて、書斎には主に下記の3タイプのレイアウトがあります。

まず1つ目は「個室タイプ」。一般的な「書斎」としてイメージされているものです。2つ目は「ブースタイプ」。ダイニングやキッチンなどの隣に位置し、間仕切り壁や棚などで区切られた空間です。3つ目は「オープンタイプ」。リビングダイニングなどにテーブルやカウンターを設けて、そこにイスを配置した空間になります。

「ブースタイプ」や「オープンタイプ」の位置はその人の使い方次第です。例えば、寝室内の一画や各居室をつなぐ家族の共有スペースなど、いつどのように書斎（ワークスペース）で過ごすかでレイアウトが決まります。

書斎の機能性

最近増えているのが、家族共用のワークスペースです。リビング内に「オープンタイプ」を設ければ、家族それぞれが自由に使える多機能空間になります。

その他に、子育てが終わった夫婦の場合、2人の時間を共有できる「ブースタイプ」や、夫婦それぞれの時間を過ごすための「個室タイプ」を2つ設ける事例もあります。

忘れてはいけないのが、コンセントや空調です。パソコンや間接照明、換気のためのサーキュレーターなど必要になる電気機器を把握しておきましょう。

このように「使う時間帯（日中か夜か）・使う人・使用時間（長いか短いか）・どう使うか」を考慮して、書斎に機能性を付加しましょう。



書斎のインテリアイメージ

「個室タイプ」の場合、その部屋の持ち主はほぼ決まっているので、お気に入りの蔵書やオブジェをオシャレな棚にディスプレイし映える空間造りを楽んだり、その人好みのインテリアイメージをかなえられます。

「ブースタイプ」や「オープンタイプ」の場合は、リビングなど周囲とのマッチングを十分考慮しましょう。

またキャスター付きのイスを使う場合、床材にも配慮が必要です。材質によっては傷が付きやすかったり、目立つたりするので、絨毯やタイルなど適した素材をハウスメーカーと相談しましょう。



このように現代の書斎は使用目的に応じて、さまざまな形があります。
ここで紹介した内容を参考に、自身の使用目的に合った書斎を実現してください。

イメージができたら、
経験豊富なハウスメーカーに
ご相談を！



ママとパパとワタシにやさしい展示場。



山陽新聞岡山住宅展示場

